

いるま

第48号

令和8年9月1日発行

題字・発行者

会長 吉武 寛



石碑の前で

副会長 廣澤 和夫

自宅近くに金剛院という真言宗豊山派の寺院があります。この寺院の境内に「物之興廃必由人」と、世界遺産である京都東寺の長者、飛鷹全隆大僧上の力強い文字で染筆された石碑が令和三年に建立されました。この石碑に刻まれた言葉は、弘法大師空海の「物の興廃は、必ず人に由る。人の昇沈は、定めて道に在り」から来ております。

ところで、全世界に多大な影響を与えた新型コロナウイルス出現の折、JT生命誌研究館の中村桂子名誉館長が「多様な生きものの中には毒を持つものや病原体などの人間に害のあるものもあります。自然は人間だけのためにあるのではないことを承知したうえで賢く生きることが大事なのです。(中略)でも、現代社会では自然離れが進み、いざという時に弱さが出てしまう。新型コロナウイルスがそれを教えてくれたのではないのでしょうか。権力やお金より大切な

は『生きる力』だということ」と述べておられます。

また、令和三年に国連が地球温暖化に関する報告書を公表しました。その中で人間の影響が大气、海洋及び陸域を温暖化させてきたことは疑う余地がないと、地球温暖化の原因が人間の活動によるものであると初めて断定しました。このように、新型コロナウイルスの出現や夏の猛暑、冬の日本海側の豪雪、太平洋側の少雨など、人間の行為が地球環境に影響を与えていることは間違いないと思います。まさに弘法大師空海の言う「物之興廃必由人」ではないでしょうか。

「物之興廃必由人」のであるのなら、今後ますます人への教育の重要性は増してくるものと思われれます。未来の地球のため、将来の子どもたちのために、学校教育で何が出来たのか考えていかなければならないと、石碑を見るたびに思います。



実るほど頭を垂れる 稲穂かな

入間地区中学校長会

会長 須澤 美和子

入間地区退職校長会の皆様には、長年にわたる教育活動の発展にご尽力いただき、また私達現役校長が先輩方の歩みを引き継ぎ教育活動を展開できますことに心より御礼申し上げます。

私が校長職に就いた頃、コロナ禍から教育活動の見直しと今後に向けて検討しなければならぬ時代というねりの真つ只中でした。当たり前にできた教育活動がそうはいかない状況となり、どのように教育活動を展開し、子供たちを育んでいくのか、人間関係の構築が希薄になりつつある中で将来を見据えた教育活動について紆余曲折した時代でした。校長として舵を取らなければならぬ重責を担う上に、この課題は未熟な新任校長にとって正解の見えない大きな課題となりました。

そのような状況下でいつもありがたかったのは、入間地区校長会の皆様の意見でした。他市町の状況や工夫点は何な

のかを知ることができ、道標となりました。また会員の皆様との繋がりによって私の視野を広めることができました。

校長として経験を積んでいく中で常々思うこと、それは今、このように節目を迎えられるのはやはりこれまで出会った先輩方や勤務校における教職員の皆様や地域の方々のおかげであるということだと思います。多くの方々の支えによって歩んできた成果と共に、今後も謙虚に進んでいく姿勢を大切に持ち続けることがこれまでもお世話になった皆様への恩返しと思い、学校経営に取り組んでいる次第です。

今回、入間地区退職校長会総会において、先輩方が現在でも教育に大きな関心を持ち、多方面においてご活躍されている姿を知ることができ、深く感動いたしました。どうか今後とも私達現役の道標として学校教育の充実と発展に向けてご支援とご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

令和八年度 定期総会開催される

令和八年五月九日(土)、入間地区退職校長会の定期総会が、午前十時半からアルカーサル迎賓館川越を会場に開催されました。

総会には、ご来賓・本会役員・各班の代議員等・鶴ヶ島市の担当者、合計八十二名が参加しました。

また、ご来賓として 鶴ヶ島市長 小川尋海様、西部教育事務所長 青木伸広様、鶴ヶ島市教育長 松井克彦様、埼玉県退職校長会副会長 兼事務局長 稲葉昭一様、入間地区小学校長会会長 太田久美子様、入間地区中学校長会会長 須澤美和子様をお招きしました。

議事に先立ち、入間地区退職校長会 古武覚会長から挨拶がありました。要点を記載します。

(一)学校現場を取り巻く環境は大きく変化し、少子化の進行、教員不足への対応、働き方改革の推進、ICT教育の充実、特別な支援を必要とする児童生徒への対応など、学校に求められる役割は年々拡大しています。

(二)国や県、市町村において様々な教育改革が進められています。が、学校現場の負担軽減につながっているのかという視点で見たとき、現場の先生方の苦労は依然として大きいものがあると感じています。

(三)学校は、子どもたちの学びを支

える場であると同時に、地域社会の未来を育む場でもあります。その大切な役割を果たすために、現場の教職員の皆様の日々献身的な努力を続けておられることを、私たちは誰よりも理解しています。

(四)長年教育に携わってきた経験と知見を生かし、学校現場に寄り添いながら、現場の声を社会や関係機関に届けることが、入間地区退職校長会の重要な使命と考えています。

(五)私たち退職校長会は、これまで培ってきた教育への情熱と責任感を持ち続け、子どもたちの未来のために行動する組織でなければならぬと考えています。会員相互の交流を深め、生涯にわたり学び続ける姿勢を大切にしながら、本会のさらなる充実



古武覚会長挨拶

と発展を目指したいと思ひます。

議長終了後、鶴ヶ島市長 小川尋海様から祝辞をいただきました。要点をご紹介します。

(一)鶴ヶ島市では、第六次鶴ヶ島市総合計画のもと、市の将来像に「しあわせ共感 安心のまち

つるがしま」を掲げ、市民の皆様とともに歩んでいます。

(二)鶴ヶ島市の特色のある教育に関する取り組み四点のうちの一点目は、市内全小・中学校水泳授業を民間の施設を利用して実施していることです。地元スイミングクラブの施設を利用し、プロインストラクターによる専門性の高い指導を実現しています。

(三)二点目は、市内全小・中学校に通級指導教室を設置し、児童生徒が必要とする支援を受けやすい環境を実現していることです。

(四)三点目は、「鶴つ子サマースクール×大学生WIN-WIN事業」により、希望する児童に自主的に学習できる機会を提供し、学習意欲の向上と「確かな学力」の育成に努めていることです。

(五)四点目は、市が費用を負担し、スクールカウンセラー・学習支援員・学級運営補助員等の様々な業務に携わる職種を配置し、学校への支援を行っていることです。

(二)各学校からは、弁護士が配置され、気軽に相談できる体制ができたので、大変ありがたいとい

令和8年度 新会員紹介

13名(敬称略)

班	氏 名
川 越	浅 見 久 江
川 越	小金井 幸 則
川 越	福 島 みどり
川 越	横 山 敦 子
狭 山	伊 藤 秀 一
所 沢	渡 邊 弘 之
所 沢	高 橋 順
飯 能	半 田 貞 晴
毛呂山	原 政 幸
入 間	佐 竹 英 樹
入間東部	村 越 澄 子
入間東部	古 川 慶 子
入間東部	朝 倉 孝



小川鶴ヶ島市長祝辞

続いて鶴ヶ島教育長 松井克彦様から祝辞をいただきました。要点をご紹介します。

(一)「鶴ヶ島市学校法務相談体制整備事業」により、学校教育課に顧問弁護士を配することができました。顧問弁護士は、保護者対応に際して、校長に助言することに加えて、保護者との面談の際には同席し、法的な観点から保護者にお話をしていたいただきます。

(二)各学校からは、弁護士が配置され、気軽に相談できる体制ができたので、大変ありがたいとい

う感想をいただきました。
 (三) 未来を担う子ども達が安心して学び、希望をもって成長できるよう、引き続き学校現場をしつかりと支えたいと考えています。また、西部教育事務所長 青木伸広様から、埼玉県及び西部教育事務所管内の現状と懸案事項について、提供していただいた情報の要点を記載します。

(一) 生徒指導上の大きな課題は、小・中学校における「不登校児童生徒」の増加です。直近の調査では、県内の不登校児童生徒数は、小・中合わせて約一万四千五百名となっています。

不登校対策として、学校においてもスペシャルサポートチームの設置など、一人一人の子どもたちのために全力で取り組んでいたಿದೆいます。

県では昨年度から「メタバースを活用した不登校支援」事業により、不登校傾向にある児童生徒への学習機会の保障を始めました。この事業は、メタバース空間上で、他の子どもたちや教職員、市町村の指導主事となることが。そして、最終的には社会とつながることに近づけるという趣旨の事業です。

(二) 中学校における部活動の地域展開についてです。県は「地域クラブ活動推進計画」を策定し、今年度から令和十三年度にかけて市町村や総合型地域クラブ等

との連携のもと、中学校の部活動を、地域で一体となつて行う形に変えていきます。

(三) 教職員の不祥事根絶についてですが、教職員の不祥事は、言い逃れのできない信用失墜行為です。特に、児童生徒が被害者となるような事故は絶対にあつてはなりません。不祥事の根絶を重要課題の一つとして引き続き取り組んで参ります。

〽懇親会・旧交を深める〽

総会終了後の懇親会。六十七名が参加した大変和やかな会となりました。会場のいたるところから明るく元気な話声が聞こえてきて、旧交を深めることができたと感じています。参加された皆様お一人お一人の益々のご健勝を心から願っております。(文責 森澤 清)



総会終了後の懇親会

班だより

親睦と研修を深め

地域の教育へ寄与

飯能班 小見山 実

飯能市退職校長会の令和八年度の会員数は五十五名で残念ながら減少傾向にあります。定年制の改正により、六十歳の役職停止年齢に達しても仕事を続ける人がほとんどで、即入会とはならないのが原因で大きな課題でもあります。しかしながら、私達飯能班は次に掲げる活動を通して、会員の親睦と交流を深め、更に地域の教育への寄与を目指しています。

地域研修会

かつては「地域めぐり」と称して市内の名所・旧跡を訪ね、会員の地域への愛着と教養を高めてき



相互研修会

ましたが、諸事情により現在は、飯能市立博物館の特別企画展を見学して学芸員から講義をしていただいております。

ここ数年の研修テーマとしては、「レアなおふだ」「飯能の山をゆく」「原市場村秘史」「飯能戦争と渋沢平九郎」などがあります。

相互研修会

この研修会は平成八年度に始まり、今年度で三十回目となります。この研修会はその名の通り会員が順番に講師を務め、お互いに研修を深めるものです。

テーマは自由で、在職時代に取組んでいたことや退職後の趣味、生涯学習などで講師に任されています。研修会後の懇親会では研修内容を更に深め、相互の交流と親睦の貴重な機会となっています。

会報「清脩」の発行

私達飯能班の会報「清脩」は、昭和五十六年度に創刊され、今年度で四十六号を数えます。

「清脩」は山岡鉄舟が好んで書いたと言われる言葉で、素行の清廉潔白な人を意味しており、退職校長会に集う会員はまさに清脩の人たちなので、この言葉を会報の題字としたことが会報第一号に記されています。

先輩方の築き上げてきた清脩の精神を受け継ぎ、緊張と厳粛な気持ちで会報を発行しております。

尚、会報「清脩」は、飯能市退職校長会のホームページに掲載していますのでご覧ください。

マイライフ・ナウ 私の「元氣充電」方法

飯能 岡部 一宏

八年前に公立中学校を退職したのち勤めさせていただいた私立高校管理職も今年三月でお役御免。日々のスケジュールを自らコントロールしなければならぬ立場になった。

週二日は大学に出かけて教職課程の講義をさせていただいている。そこで出会う「教員のタマゴたち」はみんな魅力的だ。教員不足が叫ばれる昨今、彼らに少しでも学校の先生という仕事のやりがい伝えることができればと思っている。九十分の授業をするには多くのエネルギーを要するが、講義を終えた夜のビールはまちがいになく普段に増して旨い。

三月までお世話になっていた高校には四月から卓球部が誕生。私



～「あおもり」も笑顔でゴール～

が監督をさせていただくことになった。「もう部活の時代ではない」と思いながらも若いころ夢中になっていた卓球部指導を楽しませていただいている。五月には県大会に出場する機会をいただいたが、ベンチから生徒の試合を眺める喜びをウン十年ぶりに感じ、心が踊った。

五十三歳のとき運よく当選した「東京マラソン」をきつかけに始めたフルマラソン。今は一年に約十レースのペースで日本各地の大会に参加し、今年四月の「あおもり桜マラソン」でフルマラソン完走百十三回目となった。

四十二・一九五キロを約四時間かけてのんびり走る。「三十キロの壁」に苦しむこともあるが応援してくださる沿道の皆様から元気をいただいてそれを乗り越えゴールラインを踏むときには間違いなく笑顔になっている自分がある。

「公園のデゴイチは退職

したあとほんの僅かばかりのレースをもらってもう動かなくなつた。これはさだまさしさんの「退職の日」の一節だが、私はもう少しだけ走り続けてみようと思っている。学生や生徒たちから「元氣」をいただきながら。

生きがい

私にできることを 今度は私の番

入間東部 辻口 幸恵

さて、私はこれから何をしようか……。私にできることはいったい何だろうかと考えてみた。やりたいことがないわけではない。少し前に死ぬまでにやりたいことを書き出してみたが、十個にも満たないうちに終わってしまった。ということは、これまでやりたいことはやってきたということなのだろうか。

(いや、そんなはずはない……。) ということで、これからの生き方について改めて考えてみた。

「将来の夢は？」とか「子供のころ何になりたかった？」と聞かれることがあったが、そのときいつも思い浮かんだのは、「何人(なにじん)かわからない人になる」ということだった。今でも〇〇人といった枠を超えて、様々な人たちとかかわっていったらという思いがある。

以前にこんなことがあった。中国の内陸にある町に出かけた時のこと。一人で訪れていることがめづらしかったのか、ホテルの人たちが中国語や英語、フランス語など様々な言語でしきりに話しかけてくれた。残念ながら、言語が堪能でなかった私はうまく答えられ



日本語を学ぶインドネシアの大学生たち

ず、最後には「あなたは何人か？」と聞かれる始末だった。最後に「私は日本人だ」と言ったが、どうも彼らには日本人に見えなかったらしい。期せずして、何人かわからない人になってしまった。

これまで、海外で生活する機会にも恵まれたが、その度に現地の人たちの優しさにたくさん助けられてきた。そんな彼らのおかげで仕事も滞りなく、毎日の生活も楽しく送ることができたと感謝している。

今度は、私が彼らにしてみらったことをお返しする番だ。日本にいる外国の子供たちはもとより、日本に来てくれた外国の人たちが楽しく安心して日本で過ごせるように、自分ができるところを少しでも行えたらと考えている。



旧吉田茂邸にて

梅雨空の中、二十五名の参加者で、ヤクルトのシロタ株に学んだり、終戦後の政治に思いを馳せたりしました。

令和八年度 研修・親睦旅行 雨の堂ヶ島温泉 海の幸を満喫

【旅程】 7月2日(木)

本川越・川越 → 関越道・圏央道 → 裾野IC → ヤクルト本社富士裾野工場(見学) → グルメ街道沼津(昼食) → 土肥金山(見学) → 堂ヶ島温泉 海辺のかくれ湯清流(泊)

参加者
25名

7月3日(金)

沼津港自由散策(見学・買物) → 熱海・でん助茶屋(昼食) → 大磯・旧吉田茂邸(見学) → 大磯IC → 厚木PA → 圏央道・関越道 → 川越IC → 川越・本川越



堂ヶ島温泉

二十五名の参加者を乗せたバスは予定通り川越を出発。雨に煙る東名高速、増水した相模川を横目に到着したのは「ヤクルト本社富士裾野工場」。富士山を望む美しい庭園のような環境と徹底した衛生管理の最新設備に目を見張る。

今から九十年前、代田稔博士は情熱と英知で腸を健康に保つ乳酸菌シロタ株を発見。今や世界四十カ国に広がり毎日四千万本愛飲されている。実は私は今から五十年以上前、中学二年の時に一年間学校に内緒でヤクルト配達のアルバイトをしたことがある。ヤクルトレディならぬヤクルト少年だったのだ。この見学で過去の記憶が蘇り、しばし感慨に耽る。その後、土肥金山を見学し、いよいよホテルへ投宿。海岸に隣接する風光明媚な眺めと気持ちの良い温泉につかり、いよいよお待ちかねの宴会。海の幸と旨い酒で初対面の方ともすぐに意気投合。会話はつきない。一日目はほろ酔いと感動のうちに過ぎた。

1日目

緊張の親睦旅行初参加

狭山 前原 辰信

2日目

大磯町民に愛された「旧吉田茂邸」

川越 太田 康子

二日目は、沼津港の散策を経て、熱海での昼食後、大磯へと向かった。旧吉田茂邸は、現在は大磯町郷土資料館別館として、一般に公開されている。旧吉田茂邸は、大磯丘陵に位置し、邸内から相模湾が一望でき、箱根山・富士山などが広がっている。

戦後五期の内閣総理大臣を務めた後、この大磯に隠棲した際、政財界の要人を筆頭に、様々な方が訪れたことを示すパネルが展示されている。自身の邸宅を迎賓館として改装し、近代政治の舞台ともなり大磯町民や神奈川県民から大切にされてきた。



サンフランシスコを望む銅像

邸が平成二十一年に焼失した。そこで、邸を長い間愛しんできた大磯町民と神奈川県民が協力して再建プロジェクトを立ち上げ、平成二十九年にオープンしたのが、現在の旧吉田茂邸である。

多くの客をもてなしたローズルームの佇まいは、気品にあふれていた。手入れの行き届いた日本庭園を眺めながら会話も弾んだであろう。二階にある客間の金の間や、吉田茂の自室の銀の間の大きな窓から見える富士山は、さぞや主人の心を癒したことであろう。

会員の声

おんおく
恩送り

入間東部 武藤 敦

昔はお酒を飲む機会が多かった。学期末は納会、行事や研究授業後にご苦労様会。その度、学びがあつた。ある時先輩に「恩返しより恩送りをすればいい」と言われた事があつた。

退職後に拠点校指導教員を経て、現在は小学校専科非常勤講師として授業を受け持つ。現場はやはり超多忙だ。教員不足に加え、課題山積で職場環境の改善も儘ならない。一方では、行事ごとに児童の変化や成長を感じる。諦めずに問題に食らいついてテストの点数に自信を覗かせる姿が頼もしい。調理実習後に、家族に調理して感謝されたと話す笑顔が愛おしい。少しずつ変化する学習態度や質問に来る児童に教師の醍醐味を改めて感じることも多い。

チャット GPT では、恩送りには恩返しが一对一で完結するのに対し、恩送りは連鎖して広がる点特徴と出てきた。多くの先輩方に授けていただいた教職の学びを一日も長く「恩送り」したいと毎朝、職員室に入る。

憧れ「生涯現役」

川越 小金井 幸則

一年延びた定年で、昨年三月に校長を退職し、弘済会にお世話になつて二年目。この度、皆様のお仲間に入れていただきました。

私は、これまで多くの先輩方の退職後のご活躍を拝見してきました。今でも学校現場で指導力を発揮されている方、学校とは違う社会で世に貢献されている方、趣味を深め特技を更に磨かれている方など、まるで「現役」さながらに生き生きと活躍されているお姿。とても憧れます。

教員としての現役を引退した現在、これからも何かの現役でありたい。心と体が元気なうちは、いろいろなことに挑戦し、そして、自分の世界を広げていきたい。そのためには、先輩方のお話をたくさん伺いたいです。

「生涯現役」。これからが人生の本番。今後ともご指導ご鞭撻の程よろしくお願いいたします。

家事分担

所沢 橋本 千恵子

先日、東京大学大学院情報理工系研究科の准教授、五十嵐歩美氏の講演を聴きました。演題は「公平な資源配分の理論と応用」で、公平性の概念を数学的に定義し配分

の仕方を数理的に解析するという研究でした。応用の例として、自治体の予算配分や伝染病ワクチンの配分の仕方等。話の前半は「家事分担コンシェルジュ」のアプリを開発されたことでした。家庭でパートナーと夫々の得意な家事を振り分け、互いに納得し妥協点を見いだしていくきっかけになればということでした。このようなアプリもあるのかと初めて知り驚きました。家事や子育て等は、昔から女性が担ってきました。最近では男性も育児等家事に携わっているようです。これからの若い人達が家事分担アプリ等も参考にし、互いを理解し協力して円満な家庭生活を送ってくれるようにと思います。

退職後の地元での生活

入間 榎本 操

退職校長会に入会して早十年。退職後は入間市教育センターで五年間お世話になり、その後は埼玉の教育現場を離れ、地元練馬の小学校で副校長補佐の仕事に携わっています。副校長の業務負担軽減を図るため、副校長が担当する業務管理や様々な調査等の事務処理、外部対応や施設管理など学校運営に関わる業務をこれまでの経験を生かして行っています。七十歳を迎えても、元気で可愛い子供達に囲

まれた教育現場で仕事ができることに幸せを感じています。

時間に余裕ができた今、自然の中に身を置く機会が増えました。年数回の旅と地元石神井公園の散歩を日課とし、四季の移ろいを感じながら野鳥や水生植物の観察など楽しんでいきます。自然とのふれ合いは心が穏やかになる源です。健康そして体力維持のためにも、続けていきたいと思っています。

山歩きを楽しむ

狭山 北 健

『山の会』の仲間と中央線沿線の低山を歩いている。その企画を退職校長『山Gの会』に持ち込み再歩行。目的は温泉とビールと馬鹿話。新会員募集中!! 今回の山行は、熊が怖いので高尾山。高尾山も「立派な山でした」との感想。

前記の『山の会』には一般企業での海外赴任経験者が三名いる。口をそろえて言うのが「小学校で英語は必要ない。国語をしつかりやってほしい。母国語の国語が基本。文章の要点を箇条書きにまとめられない社員が増えた」。いずれも英語が堪能な方々。

小学校英語教育も成果と国語学力や中学校英語への連携を含めた検証が必要。ゆとり、免許更新、コロナ休校、いずれも検証なし。デジタル教科書は九割の現役校長

が反対。海外では紙に回帰。
下山後の酒席の場も熱を帯びてくる。これも山歩きの楽しさ。

頭と体と心の健康を

坂戸 加藤 浩 司

日本人男性の健康寿命の平均は七十二・五歳。これを過ぎたとたん人生初の入院手術。その後も座骨神経痛や五十肩など、老化現象が現れる。さらに同年代の仲間の訃報が次々届くと、「人生の終わりは突然やつてくる」の言葉が身に迫り、次は自分かと思ってしまう。

しかし、気を取り直し、頭と体と心の健康を維持するためにできることをやっていこうと決意する。認知症予防に新聞コラムの書き写しと数独を日課にする。身体のために週二、三回の卓球。感性のために合唱と独唱の練習。地域貢献に子どもの学習支援や団地の植栽ボランティア。家庭円満のため家事の半分を担うなど、充実した毎日を過ごしている。

こうした暮らしがいつまで続けられるかは分からないが、できるだけ長く続けられるよう努めたい。

恩返しと自分への褒美

所沢 高橋 順

今年の三月、役職定年を機に退職しました。人間地区では川越市、

三芳町、所沢市で勤務し、最後の所沢市で校長を務めました。

現在、初任者指導で五人の初任者を指導しています。管理職になったのは教員時代にお世話になった分の恩返し、今の仕事は校長としてお世話になった方々への恩返しと思っています。やる気に満ちた初任者が、学校の戦力として活躍できるように育てていきます。

退職後に自宅の部屋の整理をしたら、読んでいない本が百冊ほどありました。「読もう」と思ってた買った本だけに、どれも読みたくなる本ばかりです。順調に読み始めたのに、本屋に行けば「時間があから」とまた買ってしまおうので、いつまでたっても「積ん読」は減りません。それもまた楽しく、自分へのご褒美と思つて気楽にすごしています。

宗像三女神への旅

日高 平井 斉

執筆取材のため福岡県宗像市の宗像大社を訪ねた。ここには島に入る事が許されない沖ノ島の沖津宮、大島の中津宮、釣川沿いの辺津宮の三社に、それぞれ田心姫、田儀津姫、市杵島姫の三女神が祀られていて。三女神は天照大神と素戔鳴命の誓約から誕生し、筑紫国に下された。古墳時代から祀ら

れ、後に大宮司職となる宗像一族の氏神でもあった。宗像氏からは大海人皇子（天武天皇）の妃として尼子娘が嫁した。律令国家へと加速させた壬申の乱の功労者高市皇子の母である。

世界遺産の宗像・沖ノ島では八万点もの国宝が出土し、海の正倉院ともいわれ、大陸との関係がうかがえる。この日、著名な太宰府天満宮は観光公害で喧噪の中だったが、更に歴史が深い辺津宮、中津宮とその関連遺産群は閑静でしつとりとした佇まいを見せていた。

退職公務員連盟の会員となつて

川越 新井 啓太郎

四十三年間の教員生活を終えた時、お世話になった大先輩の先生から退職公務員連盟（退公連）川越支部の幹事のお話をいただきました。少しでもお役に立てればと思い、あまり深く考えずにお受けしましたが、退公連が年金制度の構築や社会保障の確保などを目指して国や政府に意見を表明できる唯一の団体であることを知り、年金受給者である私も、自分のそして将来世代の年金を守る活動に進んで協力すべきと考えられるようになりました。ただ、退公連でも会員数の減少が大きな課題となつています。令和七年度全国大会の組織委

員長から「会員が二十万人いれば国会で退公連の意見が通る」というお話がありました。平成六年度三十七万人だった会員数も現在は約十七万六千人となっています。退公連に未加入の皆さん、お仲間になつて一緒に活動しませんか。

恩送り

越生 宮坂 郡一

先日、新聞の投稿欄を読んで、「恩送り」という言葉に出会いました。投稿によると、社会学者の上野千鶴子さんが、若手研究者を育成するための基金設立に際して使われたとのことでした。

投稿の主は、非常勤講師として、教員退職後も教壇に立たれていました。私も現在、県のSSWとして、また、町の適応指導教室指導員として勤務しています。今の私に通ずるものがあるからでしょう。その投稿の中で使われていた「恩送り」という言葉に惹かれました。現在の自分があるのも、「私をとりまく多くの人や社会の支えによるもの」と投稿者は前向きにとらえています。そして、授業を通して次世代を担う子どもたちに還元することを「恩送り」とすると結ばれていました。私も、ささやかながら、自分なりの恩送りをしたいと思つていきます。

詩

狭山茶の故郷

所沢 村松昌男

新久あらくの里に 青々と
どこまで続く お茶の畑はた
そろって踊る 軟の葉は
緑の風に 揺れる海

霜よけファンの その先に
遙かに望む 富士の山
真つ赤な夕日に 浮かぶ姿は
見事なまでの シルエット

五月さつきの空に 抜ける日は
あちらこちらで 一斉に
茶摘のマシン 轟かせ
狭山のお茶を 穫り入れる

茶摘のマシンが 来る前は
緑の波の 間から
急に飛び立つ 揚げ雲雀
さえずる鈴の音 懐かしい

夕べの風に 誘われて
工場の角を 曲がるとき
製茶の香り 香ばしく
帰宅の足も 軽くなり

※新久…入間市の西部に位置し、金子
に続く茶畑は、根通り茶と言
われ、狭山茶の約六十%を生
産する主たる生産地である。

作品の窓

短歌

「道」三題

日高 横田 武志
道の辺に咲く曼珠沙華愁ひおび
花簪の面影浮ぶ

信越道富岡過ぎれば妙義山
桜は崖に張りついて咲く

画学生家族うからの笑ふ絵を遺し
赤道直下海神わたみに抱かる
(無言館にて)

十日夜

川越 神谷 倫子

十日夜わら鉄砲を作りあひ
地面たたきし遠き日のあり

十日夜「とおかのぼたもち
なまでよし」歌ひ巡りし
おかっぱのころ

田の神を山へと送る十日夜
収穫祭とぞ初に知りたり

初夏の切り取り

越生 石井 茂

オダマキに蝶の止まりてひと休みの
どかな時を共に楽しむ

花透けて青空のぞくスモーク※の
大輪かすみ雲に溶け込む

西空を縦横無尽乱れ雲
夕日に染まる前衛絵画

※スモーク…「スモークツリー」
(花木)

俳句

風の吹く

川越 小俣 恵美子

藤揺れて溢るる想ひ手紙書く

校庭に箒目ほうきめ新た若葉風

墨絵から揚州の風鑑真忌

雑詠

所沢 和田 明広

耳馴染むホルンの響き梅雨明け

未来へと滑り飛び交う夏燕

連弾の四手の指や曼珠沙華



事務局 だより

会則第十五条の改訂について

幹事長 飯島 晴美

諸物価の高騰及び新入会員の減少等により、年会費だけで会の運営をすることができず積立金から補充して運営してきました。しかし、その積立金も残り僅かとなっている状況でした。

そこで、昨年度一年間を通して理事会等で検討し、会費を上げるのではなく節約をして運営をすることとなりました。具体的には①慶弔費を二万円から五千円にする。②理事会の参加人数を減らすとなりました。なお、慶弔費の削減については、総会において会則(第十五条)の改訂で承認を得ました。今後も予算執行の効率化に努めてまいります。

編集後記

ここに会報第四十八号を、多くの会員の皆様のご協力により発行することができました。

今年度の委員は左記の通りです。

広報担当副会長 小見山 実
部長・南部担当 丸山 昇
東部担当 太田 康子
西部担当 北野 哲
北部担当 田島 章弘
(田島)



吉武会長(中央)を囲んで

入間地区退職校長会会報 第四十八号

発行 令和八年九月一日

発行者 会長 吉武 覚

川越市寿町一―二四二二―五

印刷所 六三四堂印刷株式会社